

平成28年度中学入試

[後期A 入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて16ページあります。

試験中に、印刷がはっきりしなかったり、ページの乱れや抜け落ちに気づいたりした場合は、手を上げて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[後期A 入試] 受験番号 _____

金蘭千里中学校

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

父が家を出ていった二年後、母も再婚して家を出ていったので、残された幸、佳乃、千佳の三姉妹は祖母に引き取られ鎌倉の古い家に来てきたが、その祖母も亡くなり、家を継いで生活のすべてを三姉妹でこなしてきた。父の葬式へ出向いた三姉妹は、腹違いの妹すずに会い、今はすずも含め鎌倉で四人で暮らしている。祖母の七回忌で、十四年ぶりに鎌倉に帰ってきた母の都に、家を売らないかという話を持ちかけられた長女の幸は、勝手なことを言う母に我慢できず感情を爆発させてしまった。

翌日は梅雨らしい天気になった。遅番で家にいた幸は、午前中のうちに大方の家事を片づけてしまうつもりでいた。ひとりしていると雨音がよく聞こえる。雨音に包まれて、軋る階段を一段ずつ拭いていると、家を処分したらどうかという都の言葉が思い出された。

たしかに管理は大変だ。しかしこの家には、いろんなものがつまっている。いいものも悪いものも、大切なものもどうでもいいものも。むきになってみると、都にも佳乃にも言われた。意地を張っているとも。何より、すずにごめんなさいと言わせてしまった。何をやっているのだろう。ひとりで空回りして、周囲を巻き込んで、ばかみたいだ。

昨夜から部屋干ししておいた洗濯物を外している時、玄関の戸が開く音がした。出てみると、都が立っていた。幸がいるとは思わなかったのだろう、都のほうも驚いたようだ。「どうしたの、あんた？　どっか具合悪いの？」

「いや、べつに。今日、aヤキンだから遅出なだけ。お母さんこそ」

「昨日あんなことなかったから、渡しそびれちゃって」

「都はポストンバッグを上げりかまちに置き、手提げから次々に包みを取り出した。きちんとbハウソウされてリボンまであしらわれている。これ、幸に。これ佳乃。これ千佳」

渡されるままに受け取った土産を、幸はX見つめた。どれが誰の、と決まっているということは、それぞれに合わせて選んだということか。ずっと会っていなかった娘たちを思い浮かべて。

「あと、これ……すずちゃんに」

最後に渡された包みだけ形状が違った。ハウソウ紙には北海道の銘菓バターサンドのロゴが印刷されている。おそらくすずの土産にまでは(A)が回らず、他の親戚のために買ってきたものを流用したのだろう。忘れていたcムシンケイさには呆れるが、それでも母なり

に気を遣ったつもりらしい。

「……上がったば？」

「飛行機の時間があるから。それにおばちゃんのお墓にもちよつと寄りたいし」

「そう」

ぎくしゃくした会話は続かず、気まずい沈黙が Y。

都はそそくさとポストンバッグを持ち上げた。

「じゃあね。体、気をつけてね」

「うん」

幸が返した言葉はそれだけだった。手を振りもしなければ、笑顔もない。

都が開けた戸の隙間から、雨音が大きくなり、濡れた緑の匂いがした。戸が閉まって、すべてが遮られる。

「ちよつと待って。私も行くわ、お墓」

気がつけば、傘を掴んで飛び出していた。母と並んで歩くなんてどれくらいぶりだろう。墓地へ続く階段があ頃より狭い。

「おばさんに怒られちゃった。もうあの家はあんたたちのものなんだって」

都がぼつりと沈黙を Z。

「わかんないもんね。私は（ B ）がつまるだけだったけど、あんたたちには大切な場所になってたなんて」

「お母さん、なんで急に家売ろうなんて言い出したの？」

「もういいわよ、その話は。聞かなかったことにしてちよつだい」

「ばつが悪そうなところを見ると、せつぱつまった事情があるわけではなさそうだ。必ずしもではないがちよつとお金が必要なことができ

た、その程度のことには違いない。あほらしくて力が抜ける。」

墓につく頃には、雨はほとんど感じないくらいになっていた。傘を畳み、並んでしゃがむ。手を合わせて目を閉じる。母と同じ場所で同じ格好をしているなんて、なんだか不思議な気分だ。もう一生ないことだと思っていた。

「長いこと無沙汰しちゃって」

目を開けると、都は手を下ろして墓を見上げていた。その眼差しが思いがけず真摯で、幸はひそかに息を呑んだ。

「ごめんなさい、出来の悪い娘で」

都の声は低い。どこか頑^{かたく}なで、だが^{いた}りのようなものが感じられて、冷ややかでもありあたたかくもある。言葉は祖母に、都の母に向
けられたものだ。

幸は母の横顔を見つめた。こんなにじっくり見たのは久しぶりだった。そうか、と思う。この人も「娘」だったのだ。
立ち上がった都は、気の抜けた表情に戻っていた。

「雨、上がったみたいね」

折り畳み傘をしまいながら歩き出す。幸は駅まで送ることにした。

濡^ぬれた歩道が光っている。紫陽花^{あじさい}の花の上でアマガエルが鳴いている。

「梅雨なんて久しぶりだわ」

「北海道って梅雨ないんだ」

「うん」

母との会話はいくぶんスムーズになっていた。かみ合わないことに互^{たが}いが慣れたのかもしれない。

「そういえば、まだ梅酒作ってるんだって？ おばさん、感心してたわよ。毎年、仕込^{しこ}むの手伝わされて大変だったけど、あれが終わると、
ああ夏が来るなああって感じだった」

「少しだけ持つてく？」

「ん？」

幸の申し出が意外だったのか、都は（C）を丸くした。幸自身、自分がそんなことを言い出すとは思わなかった。

「駅で待つて。すぐ戻^{もど}るから」

幸は返事を待たずに駆け出^か出した。都の声が追ってくる。

「滑^{すく}るわよ、そこ。気をつけて」

「だいじょうぶ」

昔よくしたやりとりだった。

駅に駆けつけた時には、太陽が（D）を出していた。

駅舎の前^{まへ}にたたずむ都は、記憶^{きおく}の中の姿より瘦^やせていて、ポストンバッグが
やけに大きく見える。

「お待たせ。はい」

幸は胸に抱えていた紙袋を差し出した。梅酒の瓶が二本、入っている。

「こつちが今年ので、こつちがおばあちゃんの」

指差して伝えると、都は目を睜^{みは}った。

「まだあつたの？」

「これで最後」

都は祖母が漬けたほうをそと取り出した。日にかざして目を細める。都は知るべくもないが、さつき台所で幸がしたのと同じ仕草だった。

「いい色ねえ。懐かしい。大事に飲むわ」

都は丁寧^{ていねい}に瓶をしまい、幸を見た。微笑^{ほほえ}んでうなずく。

「じゃ」

改札に向かう都の背中に、幸はとっさに声をかけた。

「たまには帰ってきたら？ 佳乃や千佳はもつと話したかったと思うよ」

(E) を止めて振り返った都の顔を、

「うん。今度うちにも遊びに来てちょうだい」

「うん」

「じゃあ」

都が改札を抜けてdコウナイに消えていくのを、幸は最後まで見送った。

自分たちが母の家を訪れることは、たぶんないだろう。母が再び、鎌倉を訪れるのは、はるか先のことだろう。だがあの人のことだから、なんだかんだあるたびに、結局は娘をたよるに違いない。

まあいいか、と思う。元気で暮らしてくれれば、それでいい。

幸はeイエジをたどり始めた。橋にさしかかったところで、足の下を電車が潜^くり抜けていった。立ち止まって駅を見下ろす。さつき母と向き合っていた場所は、明るい光の中にあつた。

(高瀬ゆのか『海街diary』より。一部改めたところがある)

(注1) 七回忌…人の死後、年ごとにめぐってくる忌日の七回目。

(注2) 上がりかまち…家のあがり口の床に渡す横木。

(注3) 銘菓…特別な名をもつ有名な菓子。

(注4) ご無沙汰…長い間相手を訪問しなかつたり便りを出さないでいたりすること。

(注5) 真摯…まじめでひたむきなさま。

(一) 波線部 a、e のカタカナを漢字に直しなさい。

a ヤキン b ホウソウ c ムシンケイ d コウナイ e イエジ

(二)

X

 に当てはまる語句としてもっとも適切なものを次のア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仰天して イ 困惑して ウ 嬉々として エ 失望して オ 悲嘆して

(三) (A) (E) に入るもっとも適切な漢字一字を、次のア、ケの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(同じ記号をくり返し選んではいけない)

ア 眉 イ 息 ウ 耳 エ 目 オ 手 カ 足 キ 気 ク 顔 ケ 鼻

(四)

Y

、

Z

 に当てはまる語句としてもっとも適切なものを次のア、エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

Y

 …ア 強まる イ 通る ウ 治まる エ 訪れる

Z

 …ア 守った イ 消した ウ 破った エ 開いた

(五) 傍線部 「それにおばちゃんのお墓にもちよつと寄りたいたし」とあるが、「都」の「おばあちゃん」に対する感情が描かれている

部分を会話文以外から探し、最初の五字を抜き出しなさい。(句読点を含む)

(六) 傍線部 「あんたたちには大切な場所」とあるが、これを説明した部分を、「場所」に続く形で十三字で抜き出しなさい。(句読点を含む)

(七) 傍線部 「あほらしくて力が抜ける」とあるが、ここでの「幸」の感情としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母が急に家を処分すると言い出したので、何かせっぱつまった事情でもあるのかと心配していたが、たいしたことではなさそうなので、安堵している。

イ 母が家を売ろうと言い出した理由が気になっていたが、お金が必要になったからだということがわかり、自分の母ながら情けなく、がっかりしている。

ウ 家を処分したらどうかという母の言葉にむきになって反対していたが、その言葉の理由がたいしたことではなかったと推測され、むなしくなっている。

エ おばさんの言うように鎌倉の古い家は自分たち姉妹のものなのに、母が処分してはどうかなどと勝手なことを言い出すので、あきれ絶句している。

(八) 傍線部 「その眼差しが思いがけず真挚で」とあるが、これと対照的な「都」の様子が書かれた部分を七字で抜き出さない。

(九) 傍線部 「この人も「娘」だったのだ」とあるが、「幸」は何を見てどんなことに気付いたのか。そのことを説明した次の文の空欄に入る適切な言葉を、与えられた条件に従って答えなさい。(句読点や記号を含む)

三十五字以内

二十五字以内

ことに気付いた。

(十) 傍線部 「駅舎の前にたたずむ都は、記憶の中の姿より痩せていて、ポストンバッグがやけに大きく見える」とあるが、この時、「幸」が母である「都」に対して抱いている感情として、もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 年老いて、母親としてたよりなくなってしまうと感じている。

イ 体重は減ったが、むしろ元氣そうでよかったのではないかと感じている。

ウ 体は一周り小さくなくても、母親としてのたよりがいは感じている。

エ 痩せすぎて、すっかりみにくくなってしまうと感じている。

(十一) 傍線部 「懐かしい」とあるが、都はどんなことを思い出しているのか、その内容が具体的に書かれている部分を四十五字以内で探し、最初の五字を抜き出さない。(句読点を含む)

(十二) 傍線部 「まあいいか、と思う。元気で暮らしてくれれば、それでいい」とあるが、この時の「幸」の感情としても適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 佳乃や千佳のことを思うと、母には何度も鎌倉に来てほしいと思うが、現実的には難しいので仕方がないことだと自分を納得させようとしている。

イ 会う回数は少ないが、どんな形であれこれからも母と関わり合っていくことについて前向きになっており、また母の幸せを願えるようになってきている。

ウ どんなに離れていても母と自分は親子であることに変わりがないと自覚した今、この先ほとんど会うことはないと思うとさみしい気持ちになっている。

エ ほとんど会いに来てくれることはないのに、何かと自分たち娘をたよるかもしれないと思うと、なんて身勝手な母親だろうと半ばあきれている。

(十三) に入れるのにもっとも適切な描写を、次のア～ウの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号をくり返し選んではいけない)

ア 濡れた梢がきらきらと輝いている

イ ぼんやりと光が差した

ウ 雨上がりの光が照らす

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

まず人がいて、自分があつて、そして言葉がある。言葉と人の関わりを言うとき、そうした順序で考えられるのが、まず普通です。ただ、言葉と人の関係について考えるなら、その順序を逆にして考えるほうがいい、と私は思っています。まず言葉があつて、自分があつて、そして人がいるというふうに。

この世にあつて、人にとつて なくてはならないと思えるもの、毎日の生活を支えてきたもののほとんどすべてというのは、人が作り出してきたものです。人は様々なものを、作ろうとして作ってきたし、決して作れないと思われるようなものすら、しばしば作り出します。けれども、人にとつて絶対なくてはならないものというのは、必ずしも人の作ったものでなく、言葉もそうです。自分が生まれる前からずつとあつて、言葉は、私たち自身より古くて長い時間をもっています。ですから、私たちは言葉の中に生まれくる。そして、自分たちがその中に生まれきたもつとも古い言葉を覚える。

成長するとは、言葉を覚えるということです。作るものでなく、あつらえるものでない。覚えるものが言葉です。毎日の経験を通して、人は言葉を覚えます。覚えるのは、目の前にある言葉です。自分がその中に生まれてきた言葉というものを、自分から覚えることによつて人は大人になつてゆく。そういうものが、言葉です。にもかかわらず、覚えて終わりではなく、覚えた言葉を自分のものにしてゆくということができないと、自分の言葉にならない本質を、言葉はそなえています。言葉を覚えるというのは、この世で自分は一人ではないと知ることです。言葉というのはつながりだからです。言葉を自分のものにしてゆくというのは、言葉の作り出す他者とのつながりの中に、自分の位置を確かめてゆくということです。人は何でできているか。人は言葉でできている、そういう存在なのだと思つたのです。言葉は、人の Xではなく、人の Yなのだということです。

たとえばTVのニュースで、中東で問題が生じて、サウジアラビアの砂漠の道が映っているのを見ます。映っている砂漠の風景は、まったく何もない風景です。日本にはない風景の中に、日本とそっくり同じハイウェイが一本、まっすぐに通っています。道路標識が映ります。アラビア語で書かれた道路標識です。サウジアラビアでなくても、韓国でも、オーストラリアでも、ノルウェーでも、日本の他のどこであつても、ハイウェイの道路標識はどこも緑のボードに、白い文字で書かれていて、どこのどういふ街の、どういふ出口に出てゆくか、どういふ分岐点に出るか、道路標識は記号も、aキカクも、色も、まずどこでもだいたい同じです。ですから、すぐ道路標識はわかる。ただ一つ、言葉だけが全然違います。車を動かすのは、別に言葉は要らないのです。世界のどこでも、車の動かし方は同じです。しかし、緑のボードに書かれている白い文字の言葉は、その言葉に通じていない者には、意味をもたらずことはありません。勉強しないと覚えられないのが、異郷の言葉です。勉強しないで覚えられないのは、自分が生まれた土地の言葉だけです。日本の場合、勉強して覚え

る外国語という成績を重んじる教育の枠組みの中で、難しい言葉が知識とみなされて、正しい言葉ばかりが求められますが、もともとは赤ちゃんのしゃべるのも異国の人の片言もまた言葉であり、不完全な言葉もまた、私たちにとっての大切な言葉のほずです。今日のよう
に、bコツキヨウという仕切りが低くなって、人々をつなぐcキジユンが世界的に共通になってくると、問われるのは、何がグローバ
ル・スタンダードかということ。言葉はどうか。言葉というのは、どこまでも地域性に根ざすだけに、どうあってもグローバル・ス
タンダードにならないでしょう。今、世界の共通語とされる英語にしても、グローバル・スタンダードというのとは違うように思います。
英語にしても、おそろしく地域性が強く、専門家であればどの英語かほとんどわかると言います。シドニーはシドニー風英語、テキサ
スはテキサス風英語というように。それでも英語が世界の通用語の位置をしめるようになったのは、英語くらい、言葉の完全さをでなく、
言葉の不完全さを受け入れてきた言葉は少ないという歴史があるからだろうと思えます。コツキヨウを超える言葉は、完全な言葉でなく、
むしろ不完全な言葉なのです。たとえば、コツキヨウを超えて働きに行く人たちのコミュニケーションを支えるのが、カタコト言葉と、
表情と、身ぶりであるように、です。その意味では、不完全さこそ言葉の本質と言ってよく、言葉を言葉たらしめるものは、違いを違い
として受けとめられるだけのdキリヨウです。

人の表情は言葉の形をもたない言葉です。情報でなく、表情によって、その人のことを鮮やかに思い出すことがあるように、私たちは
情報ではない言葉の意味するものを、eハンタンのとても重要なところに生かすことで、自分自身を確かめることが少なくありません。
そうした非情報的なものを捨ててしまえば、私たちにとっての言葉のあり方はゆがんできます。言葉を情報とだけとらえると、非情報的
なことが見えてきません。意味はあっても文体のない言葉が増殖しています。知識だけの言葉は、言葉だけ知っていてもその言葉を感じ
できない、そういう言葉です。知識としての情報をつらねた言葉、非情報的な文体を感じさせない言葉がよそよしくて退屈なのは、「情
報を得ること」と「言葉を読むこと」は、決定的に違うからです。

そういうことを考えれば、言葉でいちばん肝心なことというのは、何かそのものを言い表して一つの意味をなすということではありま
せん。「ばか」という言葉があります。「ばか」という言葉は、様々に違った意味を表せる言葉です。「ばかやるう」と人に向かって
言うときのばか。「ばかやるう」と自分に向かって言うときのばか。「あなたたつてばかね」と言うときのばか。「仕事ばか」と言うとき
のばか。ともすれば「ばか」という言葉は、見下げる言葉とされやすいのですが、実際は違います。恥じらいや、照れや、親しみを表す
ものでもある言葉です。誰も別に意識していなくとも、私たちは日常の場面では、そのように、それぞれに意をつくして、ニュアンスを
いっばいいいっばいに活用する。そうして言葉をつつむ非情報的なfリヨウイキを明るくしながら、コミュニケーションを成り立たせよう

とします。ただ意味を表すだけでなく、ただ情報であるというだけでなく、確かに感じられるけれども、意味でもなく情報でもないものを、言葉によって伝えようという努力がなければ、言葉というものが信じられるものにはならないだろう。そう思うのです。

(長田弘『読書からはじまる』より。一部改めたところがある)

(一) 波線部 a↘f のカタカナを漢字に直しなさい。

a キカク b コツキヨウ c キジュン d キリヨウ e ハンダン f リヨウイキ

(二) 傍線部 「なくてはならない」と同じ意味になる三字の熟語を書きなさい。ただし、その熟語は「不」の漢字から始まるようにすること。

(三) 傍線部 「成長するとは、言葉を覚えるということです」とあるが、筆者にとって「成長する」とはどのような行為なのか、それを述べたところを本文から四十字以内で抜き出しなさい。(句読点を含む)

(四) X、Y にふさわしい語句を、次のア～キの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

語群【ア 能力 イ 財産 ウ 素材 エ 歴史 オ 先祖 カ 道具 キ 独創】

(五) 傍線部 「何がグローバル・スタンダードか」とあるが、

「グローバル・スタンダード」とは反対の意味を持つ語句を本文から探し、三字で抜き出しなさい。

筆者の言う「グローバル・スタンダード」に該当するものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア TVのニュース イ サウジアラビアの砂漠 ウ ハイウェイ

エ 道路標識の記号 オ 車の動かし方 カ 異国の言葉

(六) 傍線部 「「ばか」という言葉は、様々に違った意味を表わせる言葉です」とあるが、

ここでの「違った意味」に当てはまるものを本文から探し、十五字以内で抜き出しなさい。(句読点を含む)

次の 〃 の文の「ばか」を使った表現はどんな意味で用いられているか、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

正直者がばかを見る。

鼻がばかになってしまった。

ばかに忍耐強い男だ。

【ア ものたりない イ 機能しない ウ 見苦しい エ 損をする オ 程度がはなはだしい】

(七) 本文の内容に合致するものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人は言葉を使ってものを考えたり、気持ちを伝えたりしているので、言葉がないとコミュニケーションは成り立たない。

イ この国の道路標識も同じように作られているので、その国の言葉に通じていなくても道路標識に書かれた文字の意味までわかる。

ウ 外国語のように勉強して身につける言葉は、知識となって人を成長させるので、勉強しなくても覚えられる言葉には価値がない。

エ 英語は世界に通用する共通語なので、身ぶりなどなくても、カタコトの英語だけでコミュニケーションは成り立つ。

オ 知識としての言葉をつらねただけの文章は、書き手の文体が感じられないために読者に他人行儀（ぎょうぎ）な冷たさを与えてしまう。

(八) この本文の流れをまとめた次の文の(A)～(F)にふさわしい表現を本文から探し、それぞれ指定された字数で抜き出しなさい。

(句読点や記号を含む)

筆者ははじめに言葉と人の関係にふれ、言葉は必ずしも (A 七字) ではなく、私たち自身より古くて長い時間をもっているものであり、人は目の前にある言葉を覚えていくことで大人になっていくと指摘する。次に筆者は外国語に話題を移していく。私たちは外国を訪れたとき、言葉の違いに直面するが、言葉はどうあっても (B 十二字) にはならず、それは世界の共通語とされる英語も同様である。英語が世界の共通語になり得たのは、英語が言葉の本質である (C 三字) さを受け入れてきたからであると述べる。

そして、言葉を情報とだけとらえると、非情報的なことが見えてこず、言葉のあり方がゆがんでくるとする。言葉でいちばん肝心なことは、一つの意味を表すことではなく、(D 二字) や (E 三字) などの言葉をつつむ非情報的な部分によって (F 五字) をいっばいに活用しながら、コミュニケーションを成り立たせようとするのである、と述べて文をしめくくっている。

【問題は以上で終わりです】

(十)		(九)		(七)	(六)	(四)	(三)	(二)	
						Y		d	a
(十二)				(八)		Z	(三)		
							A		
						(五)	B	e	b
(十三)							C		
							D		
							E		
									c

場所

(八)		(六)		(四)	(三)	(二)	(一)	
C	A	(2)	(1)	X		不	d	a
				Y				
D								
				(五)			e	b
E				(1)				
	B							
		(七)						
F							f	c
				(2)				

得点	
受験番号	

平成二七年度 国語 後期 A 解答

60点満点

(一) a 夜勤 b 包装 c 無神経 d 構内 e 家路

各1点×5

(二) イ

2点

(三) Aキ(別解オ) Bイ Cエ Dク Eカ

各1点×5

(四) (Y)エ(Z)ウ

各1点×2

(五) どこか頑な

3点

(六) いろんなものがつまっている

3点

(七) ウ

5点

(八) 気の抜けた表情

3点

(九) () 祖母の墓に向かって「ごめんなさい、出来の悪い娘で」と言う都の姿(31字)

() (母である都もまた、自分と同様に人の娘である)(21字)

・ 合わせて12点

(十) ア

3点

(十一) 毎年、仕込

3点

(十二) イ

8点

(十三) イ ウ ア

6点 完答

60点満点

(一) 規格 国境 基準 器量 判断 領域

各1点

(二) 不可欠

2点

(三) 言葉の作り出す他者とのつながりの中に、自分の位置を確かめてゆくということ(36字)

6点

(四) (X)カ (Y)ウ

各3点

(五) 地域性 エオ

3点

(六) 恥じらいや、照れや、親しみ エイオ

3点

(七) オ

6点

(八) A人の作ったもの Bグローバル・スタンダード C不完全 D表情 E身ぶり Fニュアンス

各3点